

「リスクと機会」に関する規格の記述

1. ISO 31000:2009(JIS Q 31000:2010) リスクマネジメントー原則及び指針

(1)リスクの定義

2.1

リスク(risk)

目的に対する不確かさの影響。

注記 1 影響とは、期待されていることから、好ましい方向及び／又は好ましくない方向にかい(乖)離することをいう。

注記 2 目的は、例えば、財務、安全衛生、環境に関する到達目標など、異なった側面があり、戦略、組織全体、プロジェクト、製品、プロセスなど、異なったレベルで設定されることがある。

注記 3 リスクは、起こり得る事象(2.17)、結果(2.18)又はこれらの組合せについて述べることによって、その特徴を記述することが多い。

注記 4 リスクは、ある事象(周辺状況の変化を含む。)の結果とその発生の起こりやすさ(2.19)との組合せとして表現されることが多い。

注記 5 不確かさとは、事象、その結果又はその起こりやすさに関する、情報、理解又は知識が、たとえ部分的にでも欠落している状態をいう。

(2)関連

2.10

外部状況(external context)

組織が自らの目的を達成しようとする場合の外部環境。

注記 外部状況には、次の事項を含むことがある。

- 国際、国内、地方又は近隣地域を問わず、文化、社会、政治、法律、規制、金融、技術、経済、自然及び競争の環境
- 組織の目的に影響を与える主要な原動力及び傾向
- 外部ステークホルダ(2.13)との関係並びに外部ステークホルダの認知及び価値観

2.11

内部状況(internal context)

組織が自らの目的を達成しようとする場合の内部環境。

注記 内部状況には、次の事項を含むことがある。

- 統治、組織体制、役割及びアカウンタビリティ
- 方針、目的及びこれらを達成するために策定された戦略
- 資源及び知識として見た場合の能力(例えば、資本、時間、人員、プロセス、システム及び技術)
- 情報システム、情報の流れ及び意思決定プロセス(公式及び非公式の双方を含む。)
- 内部ステークホルダ(2.13)との関係並びに内部ステークホルダの認知及び価値観
- 組織文化
- 組織が採択した規格、指針及びモデル
- 契約関係の形態及び範囲

2. ISO9001

(1)リスクの定義

3.09

リスク(risk)

期待されている結果に対する不確かさの影響。

注記 1 影響とは、期待されていることから、好ましい方向又は好ましくない方向に乖離することをいう。

注記 2 不確かさとは、事象、その結果又はその起こりやすさに関する、情報(3.30)、理解又は知識(3.53)に、たとえ部分的にでも不備がある状態をいう。

注記 3 リスクは、起こり得る事象 (ISO Guide73 の 3.5.1.3) 及び結果 (ISO Guide73、3.6.1.3)、又はこれらの組み合わせについて述べることによって、その特徴を示すことが多い。

注記 4 リスクは、ある事象 (その周辺状況の変化を含む。) の結果とその発生の起こりやすさ (ISO Guide73、3.6.1.1) との組み合わせとして表現されることが多い。

注記 5 “リスク” という用語は、好ましくない結果が得られる可能性がある場合にだけ使われることがある。

[出所:ISO 9000:2015、3.7.4]

参考：「機会」の定義(Oxford 英英辞典)

「A time when a particular situation makes it possible to do or achieve something.」

(物事を行う(達成する)のを可能にする特定の状況/時期)

(2)簡条 6.1 の注記

注記 リスク及び機会への取組みの選択肢には、リスクの回避、機会の追求のためのリスクの受容、リスク源の除去、可能性又は結果の変更、リスク分担、又は十分な情報を得た上での意思決定によるリスクの保持を含めることができる。

(3)序文の記述

0.5“リスクベースの思考”

リスクとは、期待される結果に対する不確かさの影響をいい、リスクベースの思考は、ISO9001 には常に根底に流れていた。この規格では、リスクベースの思考をより明確に示し、これを、品質マネジメントシステムの確立、実施、維持及び継続的改善に関する要求事項に組み込んでいる。組織は、この規定で要求されているもの以上に広範なリスクベースのアプローチの展開を選択することができる。ISO 31000 は、特定の組織の状況において妥当なものとなり得る正式なリスクマネジメントに関する手引を提供している。

品質マネジメントシステムの全てのプロセスが、目標を達成するための組織の能力の点で同じレベルのリスクを示すとは限らず、またプロセス、製品、サービス又はシステムの不適合の結果が、全ての組織について同じであることはない。ある組織については、不適合の製品及びサービスを引き渡した結果として、顧客に軽微な不都合をもたらすことがあり、別の組織については、その結果が広範に及び、致命的なものになることがある。つまり、“リスクベースの思考”とは、品質マネジメントシステム、並びにその構成プロセス及び活動を計画し、管理するために必要な厳密さ、及び形式の程度を明確にする際に、リスクを定性的に(また、組織の状況に応じて定量的に)考慮することを意味している。

(4) 付属書 A の記述

A.4 リスクベースのアプローチ

この規格は、組織に対し、自身の状況を理解し(箇条 4.1 参照)、取り組むべきリスク及び機会を決定すること(箇条 6.1 参照)を要求している。

品質マネジメントシステムの主要な目的の一つは、予防ツールとしての役割を果たすことである。したがって、この規格には、“予防処置”と題する個別の箇条又は細分箇条はない。予防処置の概念は、品質マネジメントシステム要求事項の策定にかかわるリスクベースのアプローチを通じて示されている。

この規格の起草にかかわるリスクベースのアプローチによって、規範的要求事項の一部削減、及びパフォーマンスベースの要求事項によるその代替が容易になった。

リスク及び機会を決定し、それに取り組む必要があるとはいえ、本格的なリスクマネジメント又は文書化したリスクマネジメントプロセスに関する要求事項はない。

3. ISO14001

(1) リスクの定義

3.18

リスク(risk)

目的(3.16)に対する不確かさの影響。

注記 1 影響とは、期待されていることから、好ましい方向又は好ましくない方向にかい(乖)離することをいう。

注記 2 不確かさとは、事象、その結果又はその起こりやすさに関する、情報、理解又は知識に、たとえ部分的にでも不備がある状態をいう。

注記 3 リスクは、起こり得る”事象”(ISOGuide73:2009 の 3.5.1.3 の定義を参照)及び”結果”(ISOGuide73 の 3.6.1.3 の定義を参照)、又はこれらの組合せについて述べることによって、その特徴を示すことが多い。

注記 4 リスクは、ある事象(その周辺状況の変化を含む)の結果とその発生の”起こりやすさ”(ISOGuide73 の 3.6.1.1 の定義を参照)との組合せとして表現されることが多い。

(2) リスクと機会の表現

MSS の用語「リスクと機会」が、「脅威及び機会に関連するリスク」に変更された。

(3) 6.1 の解説

組織の状況(4.1 及び 4.2 を参照。)は、6.1 における脅威及び機会に関連するリスクを評価するための包括的な枠組みを提供する。これは、次の事項の基礎となる。

a) 環境側面を特定し、著しい環境側面になり得るものを決定するための基準を確立する。(6.1.2)

b) 順守義務を決定し、それらが組織の活動、製品及びサービスにどのように適用されるかを理解する。(6.1.3)

c) 脅威及び機会に関連するリスクを評価するための基準を確立する。(6.1.4)

(4) 6.1.2 の注記

注記 著しい環境側面は、有害な環境影響(脅威)又は有益な環境影響(機会)に関連するリスクをもたらし得る。

(5)6.1.3 の注記

注記 順守義務は、組織に対する有害な影響(脅威)又は有益な影響(機会)に関連するリスクをもたらす可能性をもつ。

(6)6.1.4 に関連する付属書の記述

- (1)脅威及び機会に関連するリスクは、組織の一つ若しくは複数の著しい環境側面、順守義務、又は外部の環境状況若しくは内部の状況によって作られるようなその他の課題に関連し得る。
組織は、環境マネジメントシステムの意図した成果を達成し、望ましくない影響を防止若しくは低減し、又は継続的改善を達成する組織の能力に影響を与え、このため取り組む必要がある、脅威及び機会に関連するリスクを決定することとなる。
組織は、脅威及び機会に関連するリスクを個別に又は組み合わせて決定することができ、また、この取り組みを 6.1.2 及び 6.1.3 における分析と統合することもできる。
- (2)組織は、脅威及び機会に関連するリスクを決定する方法を選定する。
この方法は、組織の運用が行われる状況(例えば、組織の規模、技術的分野、環境マネジメントシステムの成熟度)に応じて、非常に単純な定性的プロセス又は完全な定量的評価を含む場合がある。
- (3)この決定の結果は、取り組みのための計画策定(6.1.5 参照)及び環境目的の確立(6.2 参照)へのインプットとなる。

(7)6.1.5 に関連する付属書の記述

こうした脅威及び機会には、環境マネジメントシステムの意図した成果を達成する組織の能力に影響を与える他の課題によって生み出されるものも含め、支援(箇条 7 参照)、運用(箇条 8 参照)、パフォーマンス評価(箇条 9 参照)、改善(箇条 10 参照)といったマネジメントシステムのその他の部分への重要なインプットになり得るものもある。

4. JISQ9100

(1)リスクの定義

3.1

リスク(risk)

発生確率と起こり得る好ましくない結果との組み合わせを持つ望ましくない状態又は状況。

(2)リスクマネジメントに関する要求事項

7.1.2

リスクマネジメント

組織は、適用される要求事項の達成に向けたリスクを管理するため、組織及び製品に適切な、次の事項を含むプロセスを確立し、実施し、維持しなければならない。

- a)リスクマネジメントのための責任の割当て
- b)リスク基準の定義(例えば、発生確率、影響の程度、リスクの受容)
- c)製品実現を通してリスクの特定、アセスメント及びコミュニケーション
- d)定義したリスク受容基準を超えるリスクを軽減する処置の特定、実施及び管理
- e)軽減処置を実施した後の残留リスクの受容

以上